令和 2年 9月

前ゆかり　学位論文審査要旨

主　査　　山　﨑　　章
副主査　　福　田　哲　也
同　　磯　本　　一

主論文

Prognostic value of neutrophil-to-lymphocyte ratio and platelet-to-lymphocyte ratio for renal outcomes in patients with rapidly progressive glomerulonephritis
（急速進行性糸球体腎炎患者における腎転帰に対する好中球とリンパ球の比率および血小板とリンパ球の比率の予測有用性）
（著者：前ゆかり、高田知朗、伊田絢美、小川将也、谷口宗輔、山本真理絵、井山拓治、福田佐登子、磯本一）
令和2年　Journal of Clinical Medicine　9巻　E1128

主論文作成場所　　鳥取大学医学部消化器・腎臓内科学

参考論文

1. Verteporfin-photodynamic therapy is effective on gastric cancer cells
（ベルテポルフィン-光線力学療法は胃癌細胞に効果的である）
（著者：前ゆかり、神田努、杉原誉明、高田知朗、木下英人、坂口琢紀、長谷川隆、樽本亮平、枝野未來、菓裕貴、池淵雄一郎、河口剛一郎、磯本一）
令和2年　Molecular and Clinical Oncology　掲載予定

審　査　結　果　の　要　旨

本研究は、急速進行性糸球体腎炎（RPGN）患者の腎転帰に対する好中球数とリンパ球数の比率（NLR）ならびに血小板数とリンパ球数の比率（PLR）の関連を検討したものである。その結果、腎機能が維持された患者では、維持血液透析を必要とする患者と比較して、NLRおよびPLRが有意に高い傾向にあり、RPGN診断時のNLR、PLRは腎予後の予測因子となることを明らかにした。特に維持血液透析を要した患者において、診断時のNLRは不可逆的な腎障害を予測できることを示した。本論文の内容は、RPGN患者の腎予後を簡便な方法で予想可能にする、臨床上有益な報告であり、明らかに学術水準を高めたものと認める。